

グローバル人材育成関連

『中央大学SENDプログラム（日本語教育）』 2期生による海外実習報告会

2012年度に新設された『中央大学SENDプログラム（日本語教育）』が2度目の実施を終え、報告会が開催されました。このプログラムは、将来的に日本と外国のかけ橋となるエキスパート人材の育成を目的としており、受講生は海外留学を2度体験します。

1度目はイギリス・ロンドンの英国国際教育研究所（IEL）で、日本語教師養成講座を1か月にわたり受講。2度目の留学では、7か国の海外協定校に3週間派遣され、日本語教師アシスタントとして日本語を教え、日本の文化を紹介します。このほか留学前には本学で日本語教育、異文化理解教育に必要な科目を履修します。

2013年9月～2014年9月にプログラムを受講した2期生は33名。そのうち4名が代表者として、10月23日（木）に多摩キャンパスで報告を行いました。学生たちは中国、ベトナム、オーストラリア、アメリカ（ハワイ）と異なる文化圏を訪問しながらも、同様に訴えたのは自国を知ることの大切さでした。日本について尋ねられても上手く回答できず、

はがゆさを感じたと述べました。学生たちはこのプログラムで学んだことを踏まえ、「教師になってこの体験を授業に活かす！」など将来設計を描いていました。



プログラムに参加予定の学生に向け、概要を説明



受講生が作成した実習についての紹介ポスターを掲示

『Go Global Japan』 学内英語リサーチプレゼンテーション大会



地域や教育など、各チームが様々な角度から貧困問題に迫った

10月4日（土）に多摩キャンパスにて、12月に開催されるイベント『グローバル人材育成フォーラム』の英語プレゼン大会出場に向けた学内コンペが実施されました。参加したのは3～4名の学生で構成した7組のチーム。制限時間10分のなかで、「グローバル社会における『開発と貧困問題』」をテーマに、問題解決に向けた提案を英語で発表しました。

審査員はマッシュズ・ジョン文学部教授、

ウーラートン・マキシム経済学部准教授、小室夕里法学部准教授の3名です。

プレゼンテーションは学生が用意した写真や動画、グラフをスクリーンに投影しながら進められ、民族衣装に身を包んだチームも登場する華やかなイベントとなりました。審査は英語のクオリティやパフォーマンス力なども加味して選考され、「自立のための新エネルギー」をテーマに発表した、チーム「中央大学理工他」が最優秀賞に選ばれました。発表後は国際協力機構（JICA）・原智佐氏による講演『貧困問題について、保健の側面から考



最優秀賞に選ばれたチーム「中央大学理工他」

える —バングラデシュ母性保護サービス強化プロジェクトの取組—」もあり、学生たちは貧困問題についてより理解を深めました。

学生大使がOECD法務局局长ニコラ・ボヌッチ氏の 講演会を開催



10月21日（火）、多摩キャンパスにてOECD法務局局长、ニコラ・ボヌッチ氏の講演会が開催されました。本講演会は、今年1年間、OECD（経済協力開発機構）の役割や活動について学内で広報活動を行っている本学の「OECD Student Ambassador（学生大使）」チームと国際センターが企画し、実現しました。当日はOECD学生大使が司会進行するなか、ボヌッチ氏がOECDとはどのよう

な国際機関であるか、その歴史、役割などを説明。法務局局长の立場からOECDが策定する法的文書の特長、国際社会での活用の方などを紹介しました。講演後は学生大使が概要をレポートにまとめ、OECDへ報告を行いました。アンケート結果では、聴講した学生の8割以上が講演会に満足したと回答し、OECDに対する知識をより深める機会となりました。

G JENESYS 2.0～カンボジア・インドネシアの大学生が来訪



インドネシアと本学の学生が英語でディスカッション

10月9日(木)にカンボジア人大学生39名、10月16日(木)にインドネシア人大学生33名が多摩キャンパスを来訪しました。今回の訪問は外務省が掲げる事業「JENESYS2.0及び北米地域との青少年交流」によるもので、海外から青年たちを招いて日本に対する関心を高め、「訪日外国人の増加」や「日本ブランド・日本的『価値』」への国際理解の増進につなげることを目的としています。

本企画は青年海外協力協会(JOCA)からの依頼により実現し、各日ともキャンパスツアーを開催しました。

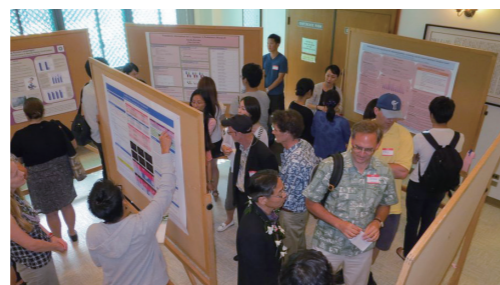
アを開催後にGスクエアで本学学生と交流を持ちました。カンボジアとインドネシアの学生からは自国の民謡や舞踊などの紹介があり、賑やかな交流会となりました。



カンボジア学生のキャンパスツアー。創立100周年記念ステージの前で記念撮影

G 『グローバル・スタディーズ』始動！ハワイ大学で学生学会を開く

2014年度に文学部主催で設置された『グローバル・スタディーズ』が、8月から開始されました。9月15日(月)～20日(土)に行われた若林茂則教授の授業では、アメリカ合衆国・ハワイ州ホノルルを訪問。本学学生たちは若林教授引率のもと、ハワイ大学マノア校にて日英語比較研究・第二言語習得研究に関する学生学会をハワイ大学の学生と共同で開催し、ハワイ大学と本学学生が各々の研究をポスター発表し合い、質疑応答・意見交換しました。また、ハワイ大学のグルトー博士から統語解析の講義を受けました。このほか、ハワイと日本の関係、ハワイの歴史・地理に関する研修を行いました。帰国後にはレポートの提出、報告会を実施しています。



研究成果をポスターで発表。沢山の意見が交わされた。



ハナウマ湾をバックに。ハワイの自然保護について学んだ。

**第6回 インターナショナル・ウィーク
「ASEAN (インドネシア・フィリピン)」開催**

本学では2011年より、特定の国や地域、国際機関などをテーマにした学内イベント『インターナショナル・ウィーク』を開催しています。本企画は多摩キャンパス全体を1週間にわたって国際的な学びの場とするもので、これまで様々なプログラムを実施してきました。12月8日(月)～13日(土)には第6回目として、ASEAN、なかでもインドネシア・フィリピンに焦点を当てて開催します。イベントの軸となるのは、駐日フィリピン大使などを招いて開く講演会です。このほか、インドネシアとフィリピンの舞踊の発表やJICA、内閣府青年国際交流事業関連の説明会、学生が主体となったプレゼンテーションなども行われます。また、後楽園キャンパスでは学生による英語でのプレゼンテーション&トーク、食堂でのフェアを予定しています。

■ 国際ガールズデー・国連デー・人権デー・国際家族農業年 記念イベントを終えて

ミレニアム開発目標(MDGs)・ポスト2015開発アジェンダの啓発を目的としたイベントを、後楽園キャンパスで開催しました。本イベントは、本学が『国連アカデミック・インパクト(国連と高等教育機関を結ぶ事業)』参加大学であることから、国連広報センターとの共催で、10月18日(土)、11月2日(日)、12月7日(日)の3回シリーズで実施しました。テーマは「ドキュメンタリーから開発アジェンダを考える」。国際共同プロジェクトとして制作されたドキュメンタリーシリーズ『Why Poverty?』(なぜ貧困が消えないのか?)から各回1作品を上映し、鑑賞後には有識者によるパネル・ディスカッションを行いました。会場には学内外から多くの方が集まり、参加者が開発アジェンダについて考えるきっかけとなりました。

■ 本学チームが『グローバル人材育成フォーラム』へ出場

12月6日(土)、明治大学にて2回目となる『グローバル人材育成フォーラム』が開催されました。文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に採択された東日本第2ブロックの大学によるイベントで、本学を含め18大学が参加。第1部では国際協力機構(JICA)の理事長・田中明彦氏が語る「国際協力の最前線」の講演、第2部は学生チームによる「開発と貧困」をテーマにした英語プレゼンテーション大会が行われました。英語プレゼンテーション大会には、学内コンペ『Go Global Japan』学内英語リサーチプレゼンテーション大会の最優秀賞チーム「中央大学理工他」が「Energy Plant Phykos」(エナジープラント ピューコス)と名を改めエントリー。自立のための新エネルギーに関する発表を行いました。